令和8年度　先生と地域の方がともに学ぶ
コミュニティー・スクール、地域学校協働活動研修会

第１日目　「CS（コミュニティ・スクール）・地域学校協働活動を知ろう」

CS・地域学校協働活動Ａ	CS・地域学校協働活動の基礎・基本（小中学校編） ～分からないこと・困っていることをコンサルタントに聞いてみよう～
講義Ⅰ	特定非営利活動法人　まほろば学びネットワーク　代表 富雄中学校区地域教育協議会　総合コーディネーター 新谷　明美　氏

コミュニティ･スクールと地域学校協働活動について、それぞれの役割や意義を学びました。学校運営協議会は法律に基づく合議体であり、学校運営に参画し、熟議をとおして当事者意識を醸成することが重要であることが確認できました。また、地域学校協働活動は学校と地域をつなぐ仕組みであり、多様な大人との関わりが子供たちの自己有用感や学びへの意欲を育むことにつながることを学びました。活動の内容だけでなく、「何のために行うのか」という目的を共有し、学校･家庭･地域が協働して子供たちの成長を支えることの大切さを改めて考える機会となりました。

CS・地域学校協働活動Ｂ	CS・地域学校協働活動の基礎・基本（県立学校編） ～探究を切り口に考える地域との連携・協働～
講義Ⅱ	山口県教育庁　地域連携教育推進課　地域連携教育班　主査 森山　義紀　氏

県立学校におけるコミュニティ･スクールや地域学校協働活動の在り方について、探究学習を切り口に御講義いただきました。地域との連携は目的ではなく手段であり、その先にある子供たちの成長や学びを見据えることの重要性を学びました。また、山口県の高校や特別支援学校における実践事例をとおして、生徒の問いや思いを起点とした地域との協働の在り方について理解を深めることができました。さらに、学校運営協議会や地域学校協働活動推進員の役割、人と人をつなぐコーディネート機能の重要性について学び、地域とともに学び続ける学校づくりについて考える機会となりました。

第２日目　「地域学校協働活動推進員の果たす役割と展望」

CS・地域学校協働活動 マネジメントＡ	学校と地域の連携・協働の実際 ～地域学校協働活動推進員に期待される役割とは～
講義Ⅲ	ゆめ☆まなびネット　代表 河内長野市立美加の台小学校運営協議会　副会長 文部科学省CSマイスター　大谷　裕美子　氏

学校と地域が連携･協働して子供を育むコミュニティ･スクールの意義と、地域学校協働活動推進員の役割について御講義をいただきました。学校運営協議会が目標や方向性を共有し、推進員が学校と地域をつなぐ調整役となることで、多様な地域人材の力を教育活動に生かせることが分かりました。また、子供が地域の大人と関わる機会を増やすことは、豊かな学びや社会性の育成につながるだけでなく、地域の教育力やつながりの向上にも寄与することを学ぶことができました。

CS・地域学校協働活動 マネジメントＢ	子供たちの未来は、今ここにある ～みんなで語り合い、学び合うワークショップ～
演習Ⅰ	ゆめ☆まなびネット　代表 河内長野市立美加の台小学校運営協議会　副会長 文部科学省CSマイスター　大谷　裕美子　氏

「子供たちの未来は、今ここにある　～みんなで語り合い、学び合うワークショップ～」をテーマに、「熟議」の体験をしました。一部の人たちの意見で話し合いを進めるのではなく、みんなが安心して意見を言える場をつくることによって、話し合いが自分事になることや、課題やアイデアを可視化して、個人の意見をチームの意見へとまとめていくことで納得解を導き出せることなどを、実際の体験をとおして学ぶことができました。そして、これからのコーディネーターは客観的な目をもち、地域のプラットホームの担い手となることを期待されていることが分かりました。



第３日目　「地域全体で子供たちを育む仕組み」

子供を支える仕組みＡ	高等学校・特別支援学校における生徒を支える仕組みについて学ぼう
活動報告Ⅰ	滋賀県立湖南農業高等学校学校運営協議会会長 元文部科学省ＣＳマイスター　髙木　和久　氏

高等学校･特別支援学校におけるコミュニティ･スクールと地域学校協働活動について御報告いただきました。コミュニティ･スクールは制度導入が目的ではなく、子供たちの課題解決や成長を支えるために学校と地域が協働する仕組みであることを学びました。また、少子高齢化や地域コミュニティの弱体化が進む中、子供たちの主体性や協働性を育み、多様な大人と関わる機会を創出することの重要性について理解を深めました。さらに、学校運営協議会は意見交換の場に留まらず、地域と学校が共に行動し、子供や地域の課題解決に取り組む組織であるべきことを学びました。

子供を支える仕組みB	１０年後の地域を創る「挑戦の種まき」 ～「やりたい」をキャリアに変える、正解のない伴走型サードプレイス～
活動報告Ⅱ	一般社団法人　ほっきょく　代表理事　髙田　昇幣　氏

一般社団法人ほっきょくが取り組む伴走型支援について御紹介いただきました。学校や家庭以外の「第三の居場所」を地域の中に創出し、学習支援や子ども食堂、学生主体の地域活動などを実施していることを学びました。また、子供たちが安心して過ごせる環境づくりをとおして、自己肯定感や生きる力の育成を図るとともに、多世代交流や地域とのつながりを大切に活動することの大切さを学びました。講演を通して、地域の大人が子供たちに寄り添い続ける伴走型支援の有用性について理解を深めることができました。

子供を支える仕組みB	子供たちの育ちを支える子ども食堂
活動報告Ⅲ	西尾市社会福祉協議会総務地域課　主任　佐伯　智映子　氏

子供たちの育ちを支える「たけのこ食堂」について御紹介いただきました。たけのこ食堂は、子供たちが安心して過ごせる居場所づくりを目的に活動しており、食事の提供だけでなく、自然体験や多世代交流をとおして生きる力や自己肯定感の育成を図っていることが分かりました。また、様々な困難や課題を抱える子供たちに寄り添い、関係機関と連携しながら支援をしています。講演をとおして、子供が安心して頼れる居場所と地域での見守りが重要であることを改めて確認できました。

第４日目　「持続可能な学校を核とした地域づくり、まちづくり」

地域づくり・まちづくりＡ	県内外のユネスコスクールによるＥＳＤ事例発表 ～地域とともに進めるＥＳＤ・ＳＤＧｓ／探究活動～
活動報告Ⅳ	愛知教育大学附属岡崎中学校　教頭　河合　貴宝　氏 岐阜県立池田高等学校　教諭　山田　啓介　氏 愛知県立刈谷北高等学校　国際探究科主任　小林　大介　氏 学校法人三重高等学校　三重高等学校　教諭　川北　浩史　氏

県内外の各校が地域の特色や課題を生かしながら、ESD･SDGsや探究的な学習に取り組んでいる実践を具体的に知ることができました。生徒が地域住民や行政、企業と関わりながら主体的に課題解決に取り組む姿は、持続可能な社会の担い手を育成する上で重要であると感じました。また、学校が地域とのつながりを深めることで、学びがより実践的で豊かなものになることを改めて実感しました。



地域づくり・まちづくりＢ	地域と学校との協働で主体的・対話的で深い学びを実現する
講義Ⅳ	ＥＳＤ、ＳＤＧｓ推進研究室　室長　手島　利夫　氏

今回の講演をとおして、「確かな学力」とは知識や技能の習得だけでなく、自ら課題を見つけ、主体的に学び、問題を解決する力まで含むものであることを学びました。また、評価は結果だけでなく学習過程を大切にし、子供の成長や努力を認めることが重要であることが分かりました。さらに、主体的･対話的で深い学びを実現するためには、子供たちの興味や関心を引き出し、「学びたい」という意欲を高める授業づくりが必要であると感じました。



第５日目	「CS・地域学校協働活動における課題と展望」
連携・協働の展望Ａ	これからの学校と地域の連携・協働の方向性と可能性について
講義Ⅴ	国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 統括研究官　志々田　まなみ　氏

講義では、これからの教育において「個別最適な学び」と「多様性の包摂」が重要であり、その実現には学校と地域の連携・協働が不可欠であることを学びました。また、子供が自ら考え行動する力である「エージェンシー」を育むためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、子供の成長を支えることが重要であるとの説明がありました。さらに、不登校や教育格差などの課題に対応するために、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を通じて、多様な人材が関わる体制づくりが求められていることを再認識できました。

連携・協働の展望Ｂ	地域づくりの未来を語る～20年後の学校と地域の連携・協働のカタチ～
シンポジウム	愛知教育大学　名誉教授　大村　恵　氏 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部統括研究官　志々田　まなみ　氏 瀬戸市教育委員会学校教育課ＣＳ統括コーディネーター 文部科学省ＣＳマイスター　船坂　礼子　氏 豊橋市立八町小学校　校長　山本　武志　氏 愛知県教育委員会あいちの学び推進課　担当課長　山本　宗雄　氏

シンポジウムでは、「20年後の学校と地域の連携・協働のカタチ」をテーマに、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の意義や展望について考える機会となりました。多世代の関わりが子供の成長と地域の活性化につながる実践が紹介され、子供を中心に、学校・家庭・地域・行政が対話を重ねながら協働することが必要であるとの意見が出されました。また、「お互い様」や「ありがとう」の気持ちを大切にし、「人と人とのつながり」を育むことが、持続可能な地域づくりの基盤であることを改めて確認する機会となりました。

